

那須地域定住自立圏構想

# 中心市宣言書

～自然を育み、魅力・活力に満ちた圏域の創出を目指して～



平成25年12月18日

那須塩原市



# 中心市宣言

我が国の総人口は、今後、急速に減少することが見込まれており、三大都市圏及び地方圏ともに人口が減少する「過密なき過疎」時代の到来が予測されており、特に地方圏においては、少子高齢化の進展、収入の減少、地域コミュニティの衰退など、より一層の厳しい状況におかれることが懸念されています。

こうした状況下において、誰もが「住みたい」「住み続けたい」と思える地域を形成し、大都市圏への人口流出を食い止め、地方圏への人の流れを創出していくためには、市町村の枠にとらわれず広域的な連携により、それぞれの持つ地域資源を最大限に活用するとともに、魅力ある地域資源を発掘・発展させ、誰もが安心して安全に生活できる自立した地域を構築していくことが重点課題となっております。

今、まさに地方圏は大きな岐路に立たされています。

那須地域は、関東随一の清流で知られる那珂川、豊かな森林資源や里山、四季折々に彩る風光明媚な観光資源、数多くの温泉といった豊富な地域資源を有し、エネルギーや食料を地域で自給できる多くの可能性を秘めた圏域であるとともに、地域固有の他に誇れる歴史・文化を有した生活・経済圏域を形成しております。

本市は、那須地域定住自立圏における中心市となり、那須地域の中心的な役割を担い、生活圏や経済圏を共にする近隣市町と、これまでに培われてきた連携や協力関係を尊重しつつ、本圏域の地域特性を活かし、本圏域の将来像である「多自然地域と居住都市の新たな共生」～ 自然を育み、魅力・活力に満ちた圏域の創出を目指して ～ の実現に向け、圏域全体の発展に全力を尽くすことを、ここに宣言します。

平成25年12月18日

那須塩原市長 高津寛二

# 1 那須塩原市における都市機能の集積状況

## (1) 人口状況

那須圏域の総人口は、約24万人となっており、そのうち那須塩原市の人口は、圏域全体の約5割を占めています。那須塩原市は、豊かな自然に恵まれ、地域資源を生かした雇用を創出している多自然地域を後背地に持ち、後背地で働く人々の生活に必要な一定の都市機能を有する居住拠点都市としての役割を担っています。

### ◆人口総数及び昼夜間人口比率

	那須塩原市	大田原市	那須町	那珂川町	合計
人口総数(人)	117,812	77,729	26,765	18,446	240,752
昼夜間人口比率(%)	95.1	105.5	104.0	88.5	—

※資料：平成22年国勢調査

## (2) 主な機関・施設等

公共施設等による各種サービス機能、医療機能、商業機能、その他行政及び民間分野における都市機能の集積状況は、概ね以下のとおりです。

分野	都市機能	機関・施設名等
医療	医療機関	病院6機関、診療所59機関、歯科診療所47機関 ※うち救急告示医療機関 菅間記念病院、国際医療福祉大学病院、福島整形外科病院、那須脳神経外科病院、黒磯病院、栃木県医師会塩原温泉病院、那須塩原クリニック・健康増進センター
福祉	高齢者施設等	特定施設入居者生活介護1施設、特別養護老人ホーム6施設、介護老人保健施設3施設、介護療養型医療施設1施設、地域密着型介護老人福祉施設3施設、認知症高齢者グループホーム11施設、元気アップデイサービスセンター4施設
	障害者福祉施設等	障害福祉サービス提供施設（介護系施設11施設、訓練系施設9施設、居住系施設11施設）
	児童福祉施設等	保育所22施設、障害児通所支援施設4施設
教育	大学	宇都宮共和大学那須キャンパス
	高等学校	那須拓陽高等学校、那須清峰高等学校、黒磯高等学校、黒磯南高等学校
	専修学校	アジア農村指導者養成専門学校、那須看護専門学校
文化・健康 スポーツ・ 観光	文化・学習施設	黒磯文化会館、三島ホール、那須野が原博物館、日新の館、黒磯郷土館、関谷郷土資料館、田舎ランド鳴内

	健康スポーツ施設	くろいそ運動場（テニスコート、野球場、サッカー場、エアライフル射撃場、体育館、武道館）、那珂川河畔運動公園（野球場、ソフトボール場、サッカー場、ラグビー場）、那珂川河畔公園プール、東小屋運動場（野球場、自由広場）、青木運動場（多目的運動広場）、青木サッカー場（芝グラウンド、体育館）、にしなすの運動公園（多目的運動広場、ジョギングコース、体育館、プール）、三島体育センター（体育館、武道館、弓道場、グラウンド、テニスコート）、塩原運動公園（運動広場、野球場、テニスコート）、関谷南公園（野球場、げんき広場）、塩原 B&G 海洋センター（体育館、プール）
	文化観光施設	塩原温泉家族旅行村（箱の森プレイパーク）、塩原温泉湯っ歩の里、もみじ谷大吊橋、塩原もの語り館、塩原温泉天皇の間記念公園、塩原温泉ビジターセンター、塩原温泉華の湯、板室健康のゆグリーングリーン、板室自然遊学センター
宿泊施設	旅館・ホテル等	旅館・ホテル 7 8 施設 寮・保養所 6 施設、民宿・ペンション 5 施設
交通	鉄道	JR 東北本線（黒磯駅、那須塩原駅、西那須野駅） JR 東北新幹線（那須塩原駅）
	高速道路	東北縦貫自動車道（西那須野・塩原 IC、黒磯板室 IC）
	高速バス	那須塩原⇄新宿
	路線バス	地域バス「ゆーバス」 9 路線 予約ワゴンバス 8 路線 ほか
	国道	国道 4 号、国道 4 0 0 号、国道 4 6 1 号
金融	銀行等	足利銀行、栃木銀行、福島銀行、大田原信用金庫、白河信用金庫、那須野農業協同組合、那須信用組合、ゆうちょ銀行窓口
	証券会社	宇都宮証券株式会社西那須野支店
商業	大規模小売店舗	那須ガーデンアウトレット、スーパービバホーム那須塩原 SC、イオンタウン那須塩原（店舗面積 10,000 m <sup>2</sup> 以上）、このほか店舗面積 1,000 m <sup>2</sup> 以上の店舗 3 4 店舗
複合施設	再開発ビル	そすいスクエア AQUAS
工業	誘致企業	下厚崎工業団地 1 3 企業、下厚崎第 2 工業団地 8 企業、上郷屋工業団地 6 企業、四区工業団地 9 企業、赤田工業団地 1 0 企業、井口工業団地 8 企業、関谷工業団地 6 企業ほか
国・県の関連施設等	国関連施設	黒磯公共職業安定所（ハローワーク黒磯）、塩那森林管理署那須森林事務所・塩釜森林事務所・中塩原森林事務所、農業・食品産業技術総合研究機構（独立行政法人）畜産草地研究所

	栃木県関連施設	県北児童相談所、那須農業振興事務所那須広域ダム管理支所、農業試験場黒磯農場、県北家畜保健衛生所、畜産酪農研究センター、矢板土木事務所塩原ダム管理所、今市発電管理事務所板室管理支所、北那須水道事務所、那須塩原警察署、那須野が原公園、とちぎ明治の森記念館
--	---------	---

### (3) 連携市町の住民による都市機能の利用状況

#### ①交通・観光

那須圏域は、国道4号・400号や主要県道、高速道路の東北自動車道、鉄道は東北新幹線、東北本線が通っており、那須塩原市と連携市町の交通ネットワークが形成されています。

特に新幹線の那須塩原駅は東京圏までのアクセスに恵まれ、連携市町の住民にも多く利用されています。また、那須圏域の主要産業である観光分野においても、圏域の玄関口として重要な役割を果たしています。

#### ◆市内各駅の1日の乗車人員(平均)(単位:人)

		総数	定期	定期外
東北新幹線	那須塩原駅	3,212	1,030	2,181
東北本線	黒磯駅	2,397	1,717	680
	那須塩原駅	4,943	2,231	2,712
	西那須野駅	3,621	2,679	942

※資料：JR東日本旅客鉄道株式会社 HP 各駅の乗車人員(平成24年度)

#### ◆観光客年間入込数(単位:人)

	観光客入込数	観光客宿泊数	外国人宿泊数
那須塩原市	9,518,292	917,645	7,358
大田原市	2,958,319	42,205	153
那須町	4,491,400	1,559,558	1,908
那珂川町	1,289,660	82,276	15

※資料：平成24年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果(栃木県)

#### ②商業

商業機能としては、黒磯駅・西那須野駅前の中心市街地をはじめ、市内各所に大手スーパーや家電量販店、ファミリーレストランなどの店舗や、郊外型の大型商業施設が立地しており、圏域の住民の暮らしを支えています。

◆購買動向（那須塩原市の吸収率：連携市町が那須塩原市で買物する割合）（単位：％）

	食料品	家電品	日用雑貨 台所用品	医薬品 化粧品	衣料品	書籍・ 文具	スポーツ用品 玩具	外食
大田原市	9.9	6.1	7.4	7.3	9.9	8.1	9.5	15.9
那須町	40.0	76.0	56.6	63.4	48.5	57.2	55.1	51.0
那珂川町	0	0.4	0.3	0.6	0.3	0.2	0.8	1.0

※資料：平成 21 年度 地域購買動向調査（栃木県）

## 2 連携市町との連携が想定される取組

那須塩原市が、那須地域圏域の中心市として、連携市町と連携する取組は、主に次のような分野を想定しています。

### ア 生活機能の強化

#### (1) 医療

- ・ 圏域住民の安全・安心な生活を確保するため、圏域内の救急医療体制の確立に向けた取組みを連携して推進する。

#### (2) 福祉

- ・ 高齢者、障害者及び子育てへの支援の充実を図るため、各種事業を連携して推進する。

#### (3) 教育

- ・ 生涯学習、社会教育及び学校教育の充実を図るため、圏域内の公共施設相互活用、教育環境の整備について連携して推進する。

#### (4) 環境

- ・ 先人から受け継いだ豊かな自然環境を保全育成し、低炭素社会の構築を図る。
- ・ 自然環境の保全、活用のための連携の強化を図る。

#### (5) 産業振興

- ・ 圏域内相互の連携により観光圏を形成し、観光客の来訪及び滞在の促進を図る。
- ・ 観光交流人口の増加を図るため、中心市と連携市町が連携し観光資源・情報を内外に発信するなど、新たな観光施策の展開を図る。

#### (6) その他

- ・ 上記のほか、圏域内の生活機能の強化に関する取組

## イ 結びつきやネットワークの強化

- (1) 公共交通
  - ・ 地域内外の往来を活発化し、日常生活圏の拡大や利便性の向上を図るため、利用実態を踏まえた地域公共交通サービスの提供等に向けた連携を図る。
- (2) ICTインフラ整備
  - ・ ICTインフラの基盤整備及び利活用を促進するため、情報ネットワークシステム等の共同利活用について連携して推進する。
- (3) 道路等の交通インフラの整備
  - ・ 圏域内移動の安全と移動時間短縮を図るため、生活主要道路及び圏域内道路等の整備やトンネル整備について連携して推進する。
- (4) 地域の生産者、消費者等の連携による地産地消
  - ・ 食の安全を確保した消費の定着や地域経済の循環を目指し、地域ブランドの構築による地産地消の推進を図る。
- (5) 地域内外の住民との交流・移住促進
  - ・ 圏域内外住民との交流促進を図る。
  - ・ 圏域内への積極的な移住促進のため、各種情報を発信し周知を図る。
- (6) その他
  - ・ 上記のほか、結びつきやネットワークの強化に関する取組

## ウ 圏域マネジメント能力の強化

- (1) 人材の育成
  - ・ 職員の政策形成能力の向上や人材育成のための合同研修等を実施する。
- (2) 外部からの人材の確保
  - ・ 地域プロモーションを実践するため外部の専門的な人材の登用及び活用を図る。



### 3 那須塩原市への通勤通学者の状況

- ◆ 中心市への通勤通学割合が0.1以上の市町又は、中心市と連携する意思を有する市町

中心市への通勤通学者の状況

	大田原市	那須町	那珂川町
常住する通勤通学者数(人)	35,758	10,415	7,929
うち那須塩原市への通勤通学者数(人)	6,860	2,870	332
那須塩原市への通勤通学割合	0.1918	0.2756	0.0419

※資料：平成22年国勢調査

中心市（那須塩原市）への通勤通学割合が0.1以上の市町又は中心市と連携する意思を有する市町は、次の3市町です。

○大田原市、○那須町、那珂川町

※○印は、那須塩原市への通勤通学割合が0.1以上の市町